

# 収

六年

画数 5  
筆順

一 収  
二 収  
三 収  
四 収  
五 収  
おさめる

成り立ち



ひもがからみ合った形を表した「リ」と、手の形を表した「又」とを組み合わせて作った字です。

「農作物などをまとめて、ひもでからむ」ことを表した字です。稲などを「たばねる」ことを表した字です。

「稲などを「取り入れる」という意味に使います。例 収穫、収集、收拾、収入、収容、領収、吸収、収納、収録、回収。

ひもでたばねると、物が縮まるので、「縮まる」意味にも使われます。例 収縮。

〔旧字体は「收」で、「リ」と「又」との会意・形声字である。罪人などをからめ捕ることを表したものである。〕

使い方

▽わたしの家では家庭菜園を作っています。そう広くはないのですが、きゅうりやなすや大根など、色々な収穫がありました。野菜を作るのは、楽しいものです。

▽ぼくは切手を収集しています。外国の友だちと文通したり、交換したりして、ずいぶんめずらしい切手も持っています。収集した切手を分類して整理するのが楽しみです。

熟語例

▽収穫（農作物を取り入れること。また、良い結果を得ることを、たとえて言います。「今度の旅では、見聞を広める上で、大きな収穫があった」などです。）

▽収集（趣味や研究などで、色々なものを取り集めること。）

▽收拾（混乱した状態を取りおさめること。）

▽収入（働いて得たお金）

▽収容（人や物の中に取りおさめること。）

▽領収（受け取ること。）

▽吸収（吸い込んで取り入れること。）

▽収録（縮まること。）

# 宗

六年

画数 8  
筆順

一 宗  
二 宗  
三 宗  
四 宗  
五 宗  
六 宗  
七 宗  
八 宗  
シユウ・ソウ

成り立ち



家の形を表した「宀」と、神の意味を表した「示」とを組み合わせて作った字です。

「神として祭られる先祖の「みたま屋」を表した字です。それで、「みたま屋のある「本家」という意味に使われます。例 宗家、宗族。

本家は「大もと」とあり、「中心」となる家ですから「大もと」「中心」の意味にも使います。例 宗主、宗匠。

「宗教」は、「大もととなる教え」という意味のことばで、「神や仏の存在を信じ、それを心の支えにしようとする精神活動」のことが表したことばですが、これを単に「宗」とも言います。例 宗派、浄土宗、一向宗、禅宗、真言宗。

使い方

▽新たに分家を立てることについて、宗族一同が集まって相談しました。長い間、話し合いましたが、結論が出ず、宗家の意見にしたがうことに決まりました。

▽世界には色々な宗教があります。仏教・キリスト教・ユダヤ教・イスラム教など、大勢の信者を持つ宗教もあれば、数十人程度の信者の宗教もあります。ともあれ、どんな宗教も人の心を支える教えには違いありません。

熟語例

▽宗家（本家。とくに、芸道の流派などで、中心になる家のことを言うこともあります。）

▽宗族（本家を中心とした一族。本家と、その分家）

▽宗主（中心になる人物。大もととして尊ばれている首長）

▽宗匠（師匠。とくに、和歌・俳句・茶道などの先生を言います。）

▽宗派（ある宗教の中の一派。仏教には、浄土宗・真言宗など、さまざまな宗派があります。）

使い方

▽新たに分家を立てることについて、宗族一同が集まって相談しました。長い間、話し合いましたが、結論が出ず、宗家の意見にしたがうことに決まりました。

▽世界には色々な宗教があります。仏教・キリスト教・ユダヤ教・イスラム教など、大勢の信者を持つ宗教もあれば、数十人程度の信者の宗教もあります。ともあれ、どんな宗教も人の心を支える教えには違いありません。

熟語例

▽宗家（本家。とくに、芸道の流派などで、中心になる家のことを言うこともあります。）

▽宗族（本家を中心とした一族。本家と、その分家）

▽宗主（中心になる人物。大もととして尊ばれている首長）

▽宗匠（師匠。とくに、和歌・俳句・茶道などの先生を言います。）

▽宗派（ある宗教の中の一派。仏教には、浄土宗・真言宗など、さまざまな宗派があります。）